

あそび



Niiimi University

2026 | <https://www.niimi-u.ac.jp>

〔特集〕

韓国・世京(セギョン)大学訪問団が
本学を訪問しました

Event & News 各学科の取り組み紹介

夢に向かって 活動している学生たち

この先生に聞きました 副学長・学部長 久保俊英

同窓会だより 在学生・学内情報

お知らせ



韓国・世京（セギョン）大学

2026年6月29日から7月1日まで、韓国・世京大学から訪問団24名を受け入れました。訪問団は、看護学科、社会福祉学科等の学生20名と、引率教員、職員で構成され、本学での授業聴講、施設見学、地域見学、学生交流などに参加しました。



本学学生と世京大学訪問団による交流会

世京大学は

韓国・江原道寧越郡にある学生数約800人の私立大学で、看護学科や社会福祉学科など、本学と共通する学科を有しています。両大学はいずれも中山間地域に立地し、地域課題に向き合う保健福祉系大学という共通点があります。

交流協定に基づく学び

本学と世京大学は、2025年6月17日に交流協定を締結しました。学生の相互訪問、文化交流、講義、病院や福祉施設の見学などを通して、学術交流と相互理解を進めています。

初日は、訪問団が学長室と副学長室を訪問した後、公文裕巳学長による特別講義「課題先進地域の現場で人と地域を創る新見公立大学」を聴講し、新見市と新見公立大学の歴史と背景、学生と共に創る地域社会「新見モデル」について学びました。

昼食時には本学学生との交流会を行い、大学生活や進路、日韓の文化について語り合いました。世京大学の学生からは、「日本の学生が積極的に話しかけてくれ、安心して交流できた」との感想が寄せられました。

午後は、地域福祉学科1年生の授業「社会保障」（井上祐介講師）を聴講し、日韓の社会保障制度や少子高齢化への対応について学びました。その後、高齢者福祉施設「風の街みやびら」を訪問し、高原淳尚理事長より、施設紹介をしていただき、ユニットケアや、利用者の生活の質と自立を重視した支援について理解を深めました。

夕方には、本学学生との交流会を開催しました。学生同士が言語や文化の違いを越えて会話し、親睦を深める機会となりました。



公文裕巳学長による特別講義



「風の街みやびら」での施設見学



学生同士のグループ交流



「在宅看護論」の授業に参加

訪問団が本学を訪問しました

授業・地域・医療福祉の現場で、専門分野での交流を深めました

2日目の午前は、新見市御殿町地区のまち歩きを行いました。御殿町まち歩きの会の方に町並みや歴史、地域の特徴を案内していただきました。

午後は、看護学科2年生の「在宅看護論」(栗本一美教授)と、健康保育学科1年生の「保育内容総論」(加藤由美准教授)を聴講しました。在宅療養者の生活の質や自立を支える看護、子どもの主体性や遊びを重視する保育について学びました。

続いて、看護実習室で、「口から食べる幸せを守る」をテーマとした食事介助実技ミニセミナー(丸山純子講師、飯田直美講師、NiU-KTSM プロジェクトメンバー)を受講しました。安全な食事介助を実技で学び、支援を受ける人の尊厳や生活の質を守る重要性を体験的に理解しました。



御殿町の歴史や町並みを学ぶ



「保育内容総論」の授業に参加



「口から食べる幸せを守る」ミニセミナーに参加

最終日は、新見中央病院を訪問し、中山間地域における医療機関の役割や課題についてご紹介いただきました。



新見中央病院を見学

中山間地域の保健医療福祉を考える

今回の本学での研修に対して、世京大学の訪問団からは、「日本の看護、福祉、保育、地域医療を直接学び、視野が広がった」、「新見公立大学の学生や教職員の細やかな配慮が印象に残った」、「自分の専門分野や将来を見つめ直す機会になった」といった感想が寄せられました。

本学では、これまで延世大学や世京大学との交流を継続し、2025年度までに学部生44名、大学院生3名が韓国研修に参加しています。2026年度も8月30日から9月4日まで、世京大学等での韓国研修を予定しております。5月からは学内で韓国語講座も開講しています。

今回の訪問は、本学と世京大学の学生双方が、専門分野の学びを深めるとともに、互いの文化や価値観を相対的に捉え、視野を広げる機会となりました。今後も、学生の相互訪問と教育交流を通して、両大学の理解と連携をさらに深めていきます。



看護学科

令和8年度 看護学実習に向けての
宣誓式を開催しました

令和8年7月3日(金)、「看護学実習に向けての宣誓式」を開催しました。

この宣誓式は、従来の戴帽式に代わり、看護について学ぶ機会として実施してきた「看護学セミナー」に代わる新たな形式の式典として、昨年度から開催しています。

看護学科2年生は、7月から「基礎看護学実習Ⅱ」に臨みます。この実習は、学生が初めて入院中の方々を受け持ち、看護師を目指す者としての自覚と責任が求められる大きな一歩となります。

この節目にあたり、臨地実習に向けた心構えを新たにするとともに、看護師としての倫理観や責任感を深めることを目的として宣誓式を開催しました。式では、公文学長、久保学部長、塩見看護学科長による講話に続き、学生代表が宣誓を行いました。学生にとって看護の道を歩む覚悟を共有する貴重な機会となりました。



代表学生による宣誓

看護学科2年生
全員による宣誓



地域福祉学科

コミュニティ・ソーシャルワーク実習
—地域とつながり、実践から学ぶ—

地域福祉学科3年生は、社会福祉協議会をはじめとする地域福祉機関で、210時間のコミュニティ・ソーシャルワーク実習を行いました。

実習では、地域住民との交流、各種地域活動への参加、地域アセスメント、個別支援の検討などを通して、地域を基盤としたソーシャルワークについて学びました。学生は、住民一人ひとりの思いや生活課題を捉えるとともに、地域の強みや社会資源を生かした支援のあり方について理解を深めました。

実習にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



地域住民と一緒に野菜を収穫



社会福祉協議会の職員や地域住民との会議に参加

健康保育学科

2年次生が
サツマイモ栽培をしています

2006年から、授業の一環として哲西町の畑でサツマイモ栽培に取り組んでいます。土の感触や自然の変化を五感で味わう体験は、机上では得られない貴重な学びです。学生は苗植え、畑の手入れ、風車づくり、いもほり、焼き芋まで一連の活動を行い、^{たわ}芋さんの温かい指導のもと、自然と向き合う姿勢の大切さに気づいていきます。畑で過ごす時間は、保育者としての成長につながるだけでなく、学生時代の楽しい思い出にもなっています。



サツマイモ畑での雑草取り



イノシシ除けの電気柵設置

にこたん学生ボランティアの活動紹介「ほっこりタイム：学生お楽しみ企画」

7月30日(木) 駅西サテライトにて、親子交流ひろば「にこたん」のアウトリーチ活動の一環として健康保育学科4年生4名が遊びを企画し、夏をテーマとしたふれあい遊びやパネルシアターをしたり、遊びながら利用者さん親子のみなさんと会話をしたりしました。0歳～2歳の5組の親子が参加し、笑顔で楽しんでくださいました。自分たちの学びや特技を活かし、子育て支援に貢献することができた充実感とともに、保育者として働くモチベーションを高める貴重な機会となりました。

*アウトリーチとは：支援が必要な人々に対して、援助者が積極的に働きかけて支援を提供する活動



歌に合わせて親子ふれあい遊びをしました。



フリータイムで一緒に遊んだり、保護者の方とお話をしたりしました。

上市地区ウォーキングマップを作成しました

共生社会実践演習の授業の一環として、上市地区で住民の皆さんと協働し、「史跡を巡る上市ウォーキングマップ」を作成しました。住民の皆さんの声を反映し、史跡の紹介に加え、ウォーキングの効果や注意点、防災士資格を持つ学生による防災メッセージや備蓄品チェックリストも掲載しました。また、体力に合わせて選べる3コースを設定し、幅広い世代が楽しめる内容としました。このマップが、地域の魅力の再発見や健康づくり、防災意識の向上、さらには住民同士の交流のきっかけとなることを願っています。



上市地区ウォーキングマップ



在宅看護論の講義を通じた韓国・世京大学との交流

本学の提携校である韓国・世京大学から学生20名と教員2名が来学し、看護学科2年生の「在宅看護論」の講義に参加しました。訪問看護に関するDVDを視聴した後、「日本と韓国の在宅看護について」をテーマに、通訳アプリを活用しながら意見交換を行いました。韓国では、在宅看取りの制度がないなど、両国の違いについて理解を深める貴重な機会となりました。今後も世京大学との交流がさらに深まることが期待されます。



通訳アプリを活用したグループディスカッション

看護学科

看護学科1年生授業： 基礎ゼミナールA

2010年度から開講された看護学科基礎科目「基礎ゼミナールA」は、2026年度で17年目となりました。当初から少人数制のチュートリアル形式を導入し、内容も少しずつ改良しています。現在は、最初の6回のオリエンテーションで大学生としての主体的な学習方法を学び、残りの回は討論を通して論理的なものの考え方や伝え方を学習しています。開講当初から現在に至るまで学生の人気が高い科目となっています。



少人数制の
チュートリアル形式



各班の学びを
全体で共有

健康保育学科

岡山県健康の森学園支援学校で 見学実習を行いました

健康保育学科3年対象の科目「知的障害者教育課程論」の授業の一環として、岡山県健康の森学園支援学校において見学実習を行いました。特別支援学校（知的障害）における教育課程の説明を受けたうえで、小学部から高等部までの児童生徒の授業を参観させていただき、特別支援学校（知的障害）における教育課程の学びを深めることができました。



岡山県健康の森学園
支援学校 宮木校長
先生による挨拶



校内見学後の振り
返り時の様子

地域福祉学科

在宅医療と多職種連携を学ぶ 合同授業を実施

2026年5月25日、地域福祉学科3年生科目「保健医療と福祉」と、看護学科2年生科目「在宅看護論」の合同授業を実施しました。

講師には、医療法人アスミス「生きいき診療所・ゆうき」院長の荒井康之先生をお招きし、「人生を支える医療のカタチ～在宅ケアの実践～」をテーマにご講義いただきました。

講義では、在宅医療の実践とともに、病気や障害とともに生きる人々を支える在宅医療の役割、多職種連携の重要性について学びました。学生にとって、医療と福祉を生活の視点から捉え、専門職同士の連携について考える機会となりました。



荒井先生の講義
を受ける学生

看護学専攻 博士前期課程

看護学専攻博士前期課程2026

看護学専攻博士前期課程で学ぶ5人の学生に、大学院での学びの魅力について聞きました。臨床経験をもつ学生からは、実践を理論や研究と結び付け、新たな意味や課題に気づけるようになったという声が寄せられました。一方、養護教諭専修免許課程の学生からは、研究の基礎を学びながら、教育現場の課題について考えを深められることが語られました。教員や院生との対話を通して視野が広がり、自身の考えを深められることも共通した学びでした。「ぜひ一歩踏み出してほしい」と未来の学生へエールが送られました。



教員と学生が共に考え、学ぶ授業の様子

(公財) シップヘルスケア古川教育財団
より助成を受けました。

新見公立大学ボードゲームサロン

沖野 真由 (健康保育学科 2 年)



NiU新見駅西サテライトで、ボードゲームや交流イベントを通じ、誰もが安心して集える地域交流の場づくりを行います。

サテライトつながり創出プロジェクト

安達 美希 (健康保育学科 2 年)



NiU新見駅西サテライトを拠点に、交流イベントや交流団体とのWS、空間整備を通じて学生と地域、市民のつながりづくりを推進します。

tape project (たぺぷろ)

篠藤 天璃 (健康保育学科 2 年)



昨年に引き続き子育て支援イベントや、かむくる食堂(子ども食堂)を地域と協働で運営していきます。

むすびの会～つないでむすぶ地域の輪～ 多世代の居場所づくり

千田 果歩 (看護学科 2 年)



地域住民同士や地域と大学生の心をむすぶことを目的に、多世代交流と地域活性化に取り組みます。

学生生活支援センター SA

和田 希望 (健康保育学科 3 年)



学生生活の質向上を目的に、大学や地域の課題発見・改善に取り組みます。

新見会

妹尾 遼平 (地域福祉学科 2 年)



高校生や地域住民との協働を通じ、地域課題の解決と交流を深める実践を行います。

地域交流・魅力発信によるまちづくり ～大佐・刑部地区、草間地区～

吉田 実歩 (地域福祉学科 2 年)



新見市役所や地域と連携し、福祉サロン運営や地域ツアー、特産品PRを通じた地域活性化に取り組みます。

学生主体による 新見魅力発信強化事業

笠松 昊生 (地域福祉学科 2 年)



大学や新見市の魅力を取材し、フリーペーパーやSNSで新見市内・市外に情報発信を行います。

みんなのひろば

浦岡 結愛 (看護学科 2 年)



「ちびっ子パワー発展プロジェクト(通称ちびデポ)」として交流の場「みんなのひろば」を開催し、地域活性化に取り組みます。

認知症オレンジパートナー

竹内 奏 (地域福祉学科 3 年)



学生の立場から認知症啓発に取り組み、イベント運営やボランティア活動を行っています。

新見公立大学韓国交流サークル

上村 瑞月 (看護学科 3 年)



日韓の地域課題や文化を学び、交流を通じてエッセンシャルワーカーとしての視野を広げる活動をしていきます。

こうねの根 ～お腹も心も満ちるひととき～

雑賀 萌 (地域福祉学科 3 年)



神根本地区での交流や集落研究を通じ、住み続けられる地域づくりを目指します。



この先生に聞きました

明るく、楽しく、厳しく！

私は、2024年3月まで岡山市にある国立病院機構岡山医療センターに勤務していましたが、表題の言葉はそのころからの私のモットーです。

私は小児科医です。もちろん病気を扱う仕事ですので、ある意味では楽しい職場ではありません。悲しい告知もありますし、別れもあります。だからこそ、患者さんにもスタッフにも可能な限り明るく、楽しく過ごしてもらいたい。しかし、病気に対しては真摯に、厳しく向き合ってもらいたい。この信念は当校に赴任してから変わりません。学生にもスタッフにも明るく楽しく過ごしてもらいたい。しかし、学問や仕事には手を抜かず、厳しく向き合ってほしいと願っています。

では、私が明るく楽しい職場にするためにやってきたことを、いくつかご紹介します。

1. さにーちゃん誕生

写真にあるのは岡山医療センター小児系マスコットキャラクターの「さにーちゃん」です。入院している子どもたちが寂しい思いをしないように、外来へ通院してくる子どもたちが少しでも病院に来るのを嫌がらないようにと、全国公募で小児系のマスコットキャラクターを作りました。彼女？は、病棟ではクリスマス会などのイベントで、外来では病院フェスタなどのイベントで大活躍してくれます。毎回、彼女の周りには子どもたちの笑顔があふれます。また、小児系の看護師さんは、さにーちゃんのイラスト入りのスクラブを着て働いています。処置を頑張った子どもたちには、さにーちゃんシールを配り、その他にもボールペン、ファイル、携帯ストラップ、タオル、男性陣にはお揃いのネクタイまで作製しました。

当大学でも「にゃっぴー」を主人公に、大学グッズなどを活用して大学だけでなく新見市全体を盛り上げていきましょう。



2. さにーちゃんガーデン開園

岡山医療センターにはたくさんの木が植えられています。しかし、あまりに整然としていて、くつろげる空間とは言えませんでした。病気を治すためには、治療される側も治療する側も、どちらも心にゆとりがないとうまくいきません。そこで、患者さんも職員も、付き添いの方も、皆がくつろげる空間が必要だと考え、院内に庭園ではなく「公園」を作ることを思いつきました。当時はまだ新型コロナ禍の最中で、患者さんも職員も鬱々とした毎日を送り、ストレスを抱えていたと思います。だからこそ、あえて工事を始めました。もちろん造園業者にも入ってもらいましたが、ペンキ塗りには院内職員のボランティアが、写真の床面の絵はデザイン学校の学生ボランティアが、定期的な水やりは附属の看護助産学校の学生ボランティアが担当してくれました。シンボルツリーは「新生・再生」を花言葉とするユーカリです。



副学長・学部長
久保 俊英先生
医学博士
専門：小児科学、
小児内分泌学

どのような効果があったかを数字で示すことはできませんが、今ではこの公園で散歩したり、リハビリをしたり、昼食をとったりと、多くの患者さんや職員がくつろいでくれています。

新見公立大学も周囲は緑で囲まれています。キャンパス内で屋外にくつろげる空間が少ないように感じます。カフェテラスなど、何か斬新なアイデアを皆で出していきたいと思います。



3. 岡山キワニスクラブ立ち上げ

皆さんはキワニスクラブをご存じでしょうか？アメリカに本部を置く、ロータリークラブ、ライオンズクラブに次ぐ世界で3番目の規模を誇るボランティア団体です。他団体と異なるのは、その活動対象を小児に特化している点です。HP(<https://okayama-kiwanis.com>)をご覧くださいなのですが、世界共通の主要な活動として「キワニスドール」という白無垢の人形を製作し、入院中や施設入所中の子どもたちに渡しています。子どもたちはその人形に自由に絵を描き、家族や友人に見立てることで心の支えにしています。私は、6年前の岡山キワニスクラブ設立時以来5年間会長を務め、その後も活動を続けています。

IPU 環太平洋大学や清心女子大学の学生さんたちも協力してくれています。ぜひ、皆さんにも関心を持っていただければと思います。



4. ドローン始動

病院のPRや学生・職員募集に何か良いアイデアはないかと考えている中で、ドローンによる動画制作を思い立ちました。早速購入し、得意な人をお願いして動画を制作したところ、これが大当たりでした。動画はお見せできませんが、この写真はドローンで撮影したものです。

当大学でもドローンを使って上空から俯瞰したり、学内を探検したり、楽しい動画が制作できないかと企んでいます。



さて、これからは新見公立大学で何か楽しいことを仕掛けようと考えています。FD/SD 集会で学生さんの新鮮な意見を聞くたびに、うずうずしてきます。

皆で、明るく楽しい新見公立大学にするために、どんどん意見を出し合っていきたいと思います。

おやこきようだいの
入学を紹介します
Familia



道繁由香理さん

新見公立短大6期(2001年入学)地域福祉学科

道繁(旧姓 奥田)学さん 短大10期(2005年入学)同

道繁 葉希さん 新見公立大学6期(2024年入学)同

2年前に娘が入学し、昨年は妻が大学院に入学しました。私も約20年前に新見公立短期大学の地域福祉学科を卒業し、数年施設勤務をした後、専門学校へ通い看護師を取得しました。その後も何かと大学にはご縁があり、後期授業で非常勤講師として学生と関わらせてもらっています。

娘は勉強もサークル活動も積極的に取り組み、妻は本業と大学での非常勤の仕事に加えて、大学院生としても頑張っているの、私も頑張らねばと日々痛感しております。授業を受け持つようになって3年目、教える事の楽しさも本大学で教わりました。

岡山市の認定こども園に勤めるようになり、3年が経ちました。まだまだ分からないことや悩むことがたくさんありますが、先輩の先生方と一緒に考えたり、優しく教えていただいたりしながら保育をしています。

現在は2歳児クラスを担当しています。子ども達は日に日に成長しており「自分でできたよ!」と嬉しそうに教えてくれる姿を見ると、喜びとやりがいを感じます。また、毎日「せんせい!」と元気いっぱい笑顔で来てくれる子ども達から元気ももらっています。

これからも子ども達に「こども園って楽しいな」と思ってもらえるような保育ができるよう頑張っていきたいと思います。



小見山 和子さん

(健康科学部健康保育学科2期生)
岡山市南方岡山中央認定こども園



6月20日岡山市内にて2回目の同窓会を開催しました。前同窓会から30年ぶりの再会で懐かしい顔ぶれに笑顔と歓声が沸き、話は尽きませんでした。先生からは、現在の教育課程を拝聴させていただき、母校の発展をととても喜ばしく、誇りに感じました。

次回還暦同窓会の約束と更なる同窓生の参加を期待しつつ散会しました。末筆ながら、大学同窓会事務局皆様のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、母校のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

新見公立短期大学 看護学科13期生

松原 美由紀さん



藤本 乃彩さん

(健康科学部地域福祉学科2期生)
市立岸和田市民病院
(7月まで在籍、韓国に移住予定)



学生時代は、所属していた鄭ゼミで韓国・延世大学での研修に参加するなどして、多くの貴重な経験を積みました。卒業後は病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務しました。医療現場でさまざまな患者さんやご家族の人生に触れる中で、一人ひとりの背景や思いに寄り添い、多面的に物事を捉えるソーシャルワーカーとしての視点は、支援の場面だけでなく、自分自身の人生を歩む上でも大切なものだ実感しました。現在は、結婚を機に韓国への移住を予定しており、新たな環境での経験を通して、さらに視野を広げていきたいと考えております。

最後に会ったの、いつだったの?

「同窓会」開催してみませんか?

同窓会は、久しぶりに会う仲間と、故郷のこと、暮らしや仕事、結婚など、今後の人生について考える良い機会になります。同級生が故郷に帰ってくる夏休みや年末年始の期間を利用して、同窓会で、仲間たちと学生時代の思い出話や近況を語り合いませんか。

県では、若い世代の結婚や出産・子育てへの関心を後押しし、希望をかなえる取組を行っており、中でも、同窓会の開催について、力を入れて応援しています。

一部の市町村では、同窓会の開催に補助を実施しています。

詳しくは岡山県縁むすび応援室のホームページをご覧ください。



県 HP

●お問合せ先：岡山県縁むすび応援室 電話 086-226-7607



社会福祉法人旭川荘との包括連携協定を締結し、 障がい者オープンカレッジを考えるシンポジウムを開催しました

本学は6月27日、社会福祉法人旭川荘と、医療・福祉分野で連携し、地域共生社会の実現と教育・研究・地域貢献を推進する包括連携協定を締結しました。同日、公開シンポジウム『『学びの場としての大学』をひらく—NIU 版障がい者オープンカレッジに向けて—』を開催しました。京俊輔氏（島根大学）が、知的障がいのある人の学びの意義や「オープンカレッジ in まつえ」の実践を紹介されました。後半は、教授・井上信次（地域福祉学科）の進行で、大月政和氏（カレッジ旭川荘学院長）、教授・高杉公人（地域福祉学科）、教授・森英顕（健康保育学科）が、福祉型カレッジ、福祉教育、芸術の学びについて報告しました。蒲原基道氏（本学客員教授）がコメントし、知的障がいのある人に大学をひらく意義について参加者で議論しました。



2026年オープンキャンパスを開催しました

2026年6月20日、7月20日、8月1日の3日間にわたりオープンキャンパスを開催しました。北海道や沖縄をはじめ全国各地から参加いただき、7月20日には過去最多となる456人が来場しました。3日間では、あわせて1012人の来場がありました。今年度は新たな試みとして、午前中から開催しました。キッチンカーも好評でした。各学科の展示や体験コーナー、キャンパスツアー、学生相談などを通じて、本学の魅力を広く知っていただく機会となりました。



学生参画 FD/SD 集会が開催されました

学生参画によるFD/SD集会「第10回教育プログラムと学生支援改善のための意見交換会－学生と教職員でつくる、よりよい学びと大学生活－」が、6月24日(水)に開催されました。今回は、学友会および学生生活支援センターSAから、学生交流事業やキャンパス環境の改善に関する提案が行われました。学生の視点から現在の大学生活の状況や課題について意見を出し合い、学生と教職員が考えを共有するとともに、相互理解を深める貴重な機会となりました。また、学生と教職員が直接意見を交わすことで、今後の学生生活の充実に向けた有意義な意見交換の場となりました。



連続ワークショップ「木のおもちゃを作ろう」(新見美術館)

7月19日(日)、8月1日(土)、2日(日)の3日間、新見美術館「つちやあゆみ 木のアート展」の関連企画として、健康保育学科教授・森英頭による連続ワークショップ「木のおもちゃを作ろう」(全3回)を開催しました。

第1回では、参加者が紙粘土を握ったり押したりしながら、それぞれの形をつくりました。その後、発達支援メディアラボ(DSML)で3Dデータ化し、シナベニアをレーザー加工機で切り出して、積層用のパーツを準備しました。

第2回では、木のパーツを各自で組み立てて、立体として仕上げました。

最終回では、そのおもちゃをひとつの商品として捉え、誰に向けたものなのかというターゲット設定から、名前、コンセプト、パッケージデザインまでを考えました。印刷した紙を切り、色を塗り、貼り合わせて、自分のおもちゃを収めるパッケージも制作しました。

手から生まれた形が、木になって戻ってくる。つくって終わりではなく、それを誰に、どのように届けるのかまで考える。誰もが作り手になれることを、それぞれに感じてもらった3日間となりました。



まんさく

2026年9月号
Vol.71

編集
後記



まんさく71号をお読みいただき、ありがとうございます。

今号では、本学と交流協定を結ぶ韓国・世京大学訪問団の来学を特集に、各学科の授業や実習、学生の地域活動、同窓生の近況などを紹介しました。世京大学の学生たちは、授業聴講や施設・地域見学、本学学生との交流を通して、日本の看護、福祉、保育、地域医療について学びました。言語や文化の違いを越えて語り合う姿から、交流することの楽しさと、異なる価値観に触れることの大切さを改めて感じました。

各学科では、実習や地域活動を通して、専門職としての自覚を深め、人や地域、自然と関わりながら学びを重ねています。また、「夢に向かって」では、(公財) シップヘルスケア古川教育財団の助成を受け、地域交流や子育て支援、認知症啓発、地域の魅力発信などに主体的に取り組む学生たちの活動を紹介しています。学内での学びを地域での実践につなげ、成長する姿に、本学らしさが表れています。卒業生から寄せられた言葉や、30年ぶりに再会した同窓会の記事からは、大学で得た学びやつながりが、卒業後も人生を支え続けていることが伝わってきました。

本号の編集にあたり、原稿や写真をお寄せいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。誌面を通して、本学の学生、教職員、卒業生、そして地域の皆様がつくる多彩な学びとつながりを感じていただければ幸いです。季節の変わり目となりますが、皆様どうぞ健康やかに過ごしてください。(鄭)

発行

新見公立大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL : <https://www.niimi-u.ac.jp/>



編集

広報委員会

広報部長

三上 ゆみ

広報委員(50音順)

井上 信次	大島 由美	加藤 由美
佐々木新介	柴田 知瑞	鄭 丞媛
竹下可奈子	村上 留美	明田 優心
谷高 徹	矢野 英樹	山根 千絵

やさしさ循環食支援 余剰野菜の力で地域の共助を実現する一タスカルワ

学内食堂のスペースで哲西の若者が余剰野菜の無人販売を開始しました！その名も「タスカルワ」です。皆様お買い求めください！

人生の“過ごし方”ではなく、“生き方”を30代半ばになるにつれ、段々と考えるようになりました。「何のために生まれて、何をして生きるのか？」このアンパンマンのマーチの歌詞の問いがグルグルと頭の中を回ります。

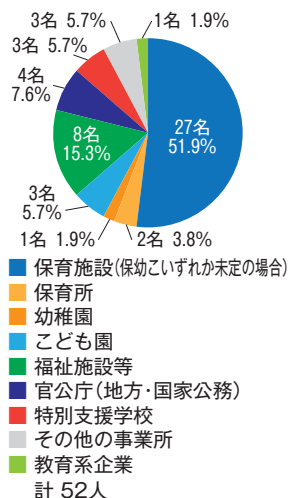
そんな中生まれたアイデアの余剰野菜の買取、販売サービスは、田舎のお年寄りから余った野菜を買取り、学生や生活に困った人に低価格で販売することで、誰もが“助かる”活動です。

今後はこの活動を広げ、食を通じた支え合いの場を増やしながら、誰もが誰をも思いやる、そんな“やさしい社会”を目指します。

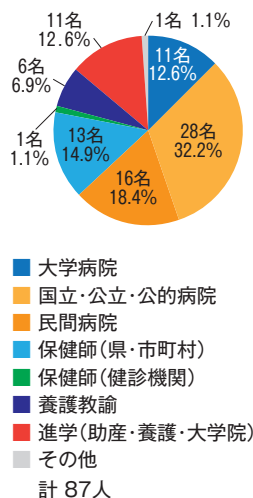


2025年度 卒業生 就職・進学状況

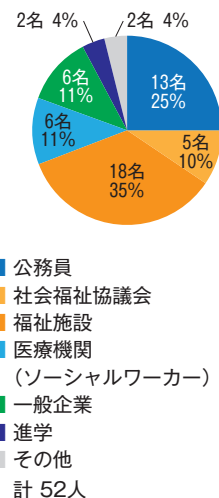
健康保育学科



看護学科



地域福祉学科



おめでとう

新見公立大学
健康科学部 看護学科

第115回 看護師国家試験

合格率(新卒者) 98.8%

第112回 保健師国家試験

合格率(新卒者) 95.0%

新見公立大学
助産学専攻科

第109回 助産師国家試験

合格率 100%

新見公立大学
健康科学部 地域福祉学科

第38回 介護福祉士国家試験

合格率(新卒者) 100%

第38回 社会福祉士国家試験

合格率(新卒者) 84.8%

(福祉系大学等新卒合格率78.5%)